

チャペル週報

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。

(マタイによる福音書 11:28)



2006.7.3~7.12 No.12
関西学院宗教センター

チャペル・スケジュール 時間 10:35 ~ 11:05・場所 各学部チャペル

7月3日(月)	神 浦 上 充 (神4) 経 細 見 和 志 (総合政策学部助教授)
7月4日(火)	院 神 田 健 次 (神学部教授) 神 嶺 重 淑 (神学部専任講師) 文 田 淵 結 (宗教主事) 社 大切なこと 森久美子 (社会学部助教授) 法 栗 林 輝 夫 (宗教主事) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 商 歌うチャペル 総 田 島 幹 雄 (名誉博士)
7月5日(水)	神 トーンチャイム隊による音楽礼拝 社 大切なこと 中道基夫 (神学部助教授) 法 Christian M. Hermansen (宣教師) 経 Andreas Rusterholz (宣教師) 商 辻 学 (宗教主事) 理 永 田 雄次郎 (文学部教授) 総 久保田 哲 夫 (総合政策学部教授)
7月6日(木)	神 平 林 孝 裕 (神学部助教授) 文 辻 学 (商学部宗教主事) 法 大 西 和 明 (総合教育研究室事務長) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 商 English Chapel Richard Stinson (宣教師) 総 畑 祥 雄 (総合政策学部教授)
7月7日(金)	神 神 田 健 次 (神学部教授) 文 Andreas Rusterholz (宣教師) 社 大切なこと 栗林輝夫 (法学部宗教主事) 経 中 條 道 雄 (総合政策学部教授) 商 平 林 孝 裕 (神学部助教授) 理 「思い通りにいかない!!」松木真一 (宗教主事)
7月10日(月)	神 David Wider (宣教師) 経 舟 木 讓 (宗教主事)
7月11日(火)	院 樋 口 進 (宗教センター宗教主事) 神 中 道 基 夫 (神学部助教授) 文 春学期終了チャペルパーティ 社 大切なこと 打樋啓史 (宗教主事) 法 栗 林 輝 夫 (宗教主事) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 商 Christian M. Hermansen (宣教師) 総 中 野 幸 紀 (総合政策学部教授)
7月12日(水)	神 キリスト教音楽にふれよう3 社 学期末にあたって 對馬路人 (社会学部教授・学部長) 法 Christian M. Hermansen (宣教師) 経 根 岸 紳 (経済学部教授・学部長) 商 English Chapel Richard Stinson (宣教師) 理 春学期最終礼拝 総 福 田 豊 生 (総合政策学部教授・学部長)

夏休みを前に - 学ぶとき、幸福のとき -

森 田 雅 也

わたしは知った
人間にとって最も幸福なのは
喜び楽しんで一生を送ることだ、と。
人だれもが飲み食いし
その労苦によって満足するのは
神の賜物だ、と。
『コヘレトの言葉 3. 12 ~ 13』

学生の皆さんに「夏休み」という語の印象を聞けば、多くの人が夏の「授業がない」、「学業から解放される」期間などと答えてくれるでしょう。その答えは間違っていない。

しかし、我々教員にとっては、やっと研究に専念できるという喜びの期間なのです。

我々教員は日頃、研究者であるとともに大学教育、大学行政を担っています。二足のワラジどころか、三足の八咫鳥(やたがらす)、鼎(かなえ)の体なのです。

その三つの中から、夏休みは研究、すなわち「学び」だけをする人、つまり「学生」になれるのです。これに勝る喜びはありません。夏休みになったら、あれを調べよう、これを読もう、あの人に教えてもらおう、あそこを見てこようと、今からワクワクしています。

ところで、私のいう「学ぶ」とは何も自らの研究テーマだけではありません。むしろ研究テーマから離れたところにこそ「学ぶ」楽しさがあるのです。

例えば、誰が『甲山』と呼んだのか、いつから『本』という言葉があるのか、なぜ日本の犬の鳴き声は『ワン、ワン』なのか、どうして田淵先生は太らないのか。

このように「学ぶ」というのは学問ではなく、すべて好奇心なのです。皆さんがこの夏、アルバイトするのも免許をとるのも留学するのも旅行するのもすべて「学び」なのです。

この夏、学生諸君と同様、私も学生です。学びの競争をしませんか。そして、夏休みが終わったとき、互いに満足な顔で、この神からの賜り物を自慢しようではありませんか。

「夏休みは暑いからお休み。ゴロゴロしたい。」と言っているあなた。悪魔があなたの名前を『DEBU NOTE』に書きますよ。かく言う私、とある夏の被害者なのですから。

(文学部教授)

ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:00~8:20 於:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
7月7日(金) 夏休みを前にして 川島恵美
総合政策学部早天祈祷会 毎水曜日 午前8:40~ 於 I号館312教室

吉岡記念館 連続写真展

吉岡記念館 1階ラウンジで『この時代を生きる』をテーマに4人の写真家の作品展及び講演会を行っています。皆様に、今、生きている世界を見る目を持っていただきたいと願っています。

7月3日(月)午後～7日(金) 兵頭千夏氏 チベット

「チベット・カイラス巡礼」

講演会：7月4日(火)15:10～16:40

今の世界の「人権」を考えるフィルム・セッション(第1回)

「人種のサラダボウル」の喜劇と悲劇

スパイク・リー監督 "Do The Right Thing"を観る

と き：7月10日(月)15:15～18:30

と ころ：吉岡記念館 会議室1(3階)

トーク：細見和志(人権教育研究室室長)

藤井和夫(経済学部教授)

司 会：阿部 潔(社会学部教授)

主 催：関西学院大学人権教育研究室

吉岡記念館企画・一般公開・参加無料

神戸三田キャンパスチャペルオルガニスト募集中

理工学部と総合政策学部の学生チャペル・オルガニストを募集しています。

リーフレット、募集要項、応募用紙は神戸三田キャンパス事務室(1号館キャンパス担当)にあります。詳細は、吉岡記念館事務室宗教センターでお尋ねください。(0798-54-6018)

また、募集要項、応募用紙は関西学院宗教センターホームページからダウンロードできます。
http://www.kwansei.ac.jp/christian_center/

聖書の植物(7) ポプラ(ギンドロ)

ヤナギ科ヤマナラシ(ポプラ)属の落葉樹。3-4種類あると言われるパレスチナのポプラは、水辺多湿の地に多い植物です。ヘブライ語ではリブネーと言い、2度出ますが(創世記30:37, ホセア書4:13) これはウラジロハコヤナギと言われるものです。ヨルダン川源流のバニアスのほとりには、この森林があります。高さは10mにもなり、幹は白っぽく、葉の裏も綿毛で白っぽく見えます。花は、葉の出る前に尾状花序を作ります。若い芽は、ニス様の樹脂でおおわれ、春、甘い香料のような芳香を放ちます。また、傷つけると、香りのよい樹脂がにじみ出ます。しばしば異教の聖所はポプラやテレビンの木の下に建てられました(ホセア書4:13)。日本にあるポプラの大半は(関学の校歌のポプラも)「セイヨウハコヤナギ」という種類のものです。

ヤコブは、自分の家畜を増やすためにポプラとアーモンドとプラタナスの若枝の皮をはいで水槽の中に入れ、その水を家畜に飲ませた、と言われていています(創世記30:37-39)。

ポプラの幹は種々の道具や木靴、屋根などの材料に用いられ、また葉は強壯剤や解熱剤に用いられました。

春学期の「チャペル週報」は本号が最終号となります。毎週月曜日発行の本紙には、各学部のチャペルスケジュールのほか、教職員による短い文章を掲載しています。この欄は執筆者のお人柄や読者へのメッセージに触れることが出来る場です。各学部のチャペルとともに、あなたの心に何かを残すことができれば幸いです。

秋学期の発行は9月25日号からです。よい夏休みを!